

平成 27 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

目 次

| | | | |
|-----|----------------------|-------|-----|
| I | 調査の概要 | ----- | 1 |
| II | 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要 | ----- | 1 |
| III | 教科別調査結果の概要 | | |
| | 国 語 | ----- | 2 |
| | 社 会 | ----- | 5 |
| | 数 学 | ----- | 7 |
| | 理 科 | ----- | 8 |
| | 英 語 | ----- | 1 1 |
| * | 得点の度数分布グラフ | ----- | 1 3 |
| * | 平均点推移グラフ | ----- | 1 9 |
| * | 正答率調査表 | ----- | 2 1 |

I 調査の概要

1 調査の目的

平成27年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

2 実施日、調査教科

平成27年3月5日（木）

| | |
|-----------------------|-------------|
| 国語（55分） | 9：30～10：25 |
| 社会（45分） | 10：40～11：25 |
| 数学（45分） | 11：40～12：25 |
| 英語（45分、うち「リスニング」約12分） | 13：30～14：15 |
| 理科（45分） | 14：30～15：15 |

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員4,724人（男子2,396人／女子2,328人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は、477人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たってはすべての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力も見るように出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し、思考力、判断力、表現力を検査することができるように工夫すること。
- ④ 全県的な視野にたって出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

2 得点別に見た度数分布

総合得点の平均点は266.0点で、前年度より6.9点低かった。最高点は469点、最低点は2点であり、その得点分布は（**図1-1** P13）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較すると、男子は265.6点（前年度比-7.4点）、女子は266.5点（前年度比-6.2点）で、女子が男子より0.9点高い。その得点分布は（**図1-2** P13）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成23年度から今年度入試まで5年間の全体平均は（**図1-3** P19）のように推移している。

Ⅲ 教科別調査結果の概要

○ 国 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の内容と、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」をもはかる分野を網羅し、検査するものとし、併せて、全学年にわたり、全領域から偏りのない出題となるように配慮した。
- ② 「話すこと・聞くこと」に関しては、日常生活の中の話題について対話や討論を行うときの、話し合いを効果的に進めるための司会の役割や、自分の考えをまとめた的確に話すことについて出題した。取り上げたのは、学校生活や地域のことをビデオレターで紹介することになったクラスで、どのようなビデオレターを作成するかを話し合う場面である。記録者が発言を黒板に整理し、話し合いの内容を可視化し、簡潔に示すことで、話題の方向を捉えて相手の話を聞き、自分の考えをまとめるように設問を構成した。
- ③ 古典については、1年次に扱う「矛盾」という故事成語を、書き下し文、現代語訳、訓読文と併せて提示しながら、我が国の伝統的な言語文化が創造と継承を繰り返しながら形成されてきたことを理解し、それらに親しみ、我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつないでいくことができるような出題を心がけた。
- ④ 説明的な文章については、『平家物語』の「語り物系」と「読本系」の2種類のテキストを具体例を挙げながら比較することで、「話し言葉」と「書き言葉」の違いを明らかにした文章を取り上げた。現在の日本語の文章の原型となる和漢混淆文の成立に関わる代表作である『平家物語』は、中学生になじみのある作品であり、それについて解説した文章は、伝統的な言語文化に触れ、国語の特質を理解しながら、国語に対する認識を深めたり、国語を尊重したりする態度の育成にかなっている。文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を持って読み進めることで、内容を正確に読み取り理解できるかどうかについて問うた。また、中学校国語科の目標に、「思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし」とあり、この点についても配慮した。
- ⑤ 文学的な文章については、筆者が、夢への情熱を忘れず、試行錯誤を繰り返し、自分自身の力で解決策を編み出しながら作家になるまでを、時系列で追いながら振り返った文章を取り上げた。平易な言葉を用いて読み手に語りかける表現により、理解しやすい内容となっている。進路について考えを巡らせている中学生にとって、人生を歩いていく上で大切なことは何かについて、考えることのできる文章である。比喩的に表現されている抽象的な内容について理解することや、辞書的な意味を基に文脈上での意味を考えながら、今まで学習してきた文学的な文章を読み取る力について問うた。併せて、文章の読み取りを前提として、具体的な経験の中から適切な材料を選び、構成を工夫しながら表現する力を問う出題内容とした。
- ⑥ 配点については、一領域の比重が大きくなりすぎることがないように配慮した。

2 得点別に見た度数分布

全体の平均点は57.7点で、昨年に比べて10.5点低い。最高点は96点、最低点は0点で、その得点分布は(図2-1 P14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は56.4点、女子は59.0点であり、女子が男子より2.6点高い。その得点分布は(図2-2 P14)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成23年度からの5年間の全体平均点は、(図2-3 P19)のような推移である。平成27年度は、5年間で最も低い平均点となっている。

男女の平均点の差は3～4点前後で推移している。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P21）

㊦ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き・形容詞の活用に関する知識）

一、二では、学校生活や身近な社会生活に関わる短文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書き取りを出題した。新常用漢字については、文科省通知による出題に際しての配慮事項等を受けて、音読みと訓読みとを1字ずつ出題した。日常生活の場面で使われる漢字についてはよくできているが、書き取りを中心に、問題によっては正答率に大きな差が見られ、体験的に語彙を獲得する必要が感じられる。読書体験をはじめとして活字文化に触れたり、豊かな人間関係に支えられた様々な体験を通じて使える語彙を増やししながら、繰り返し学習したい。

三は、形容詞の基本形（終止形）と活用について正しく理解できているかを問う問題を、国語辞典を使って「こそばゆい」の意味を調べる場面を想定して設定した。形容詞の基本形が「～い」となり、語尾が変化していくことを理解することは、高校進学後の古典学習の際に、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する上で必要なことである。基本形の理解については、正答率91.8%とよくできているが、品詞名を漢字で解答する問題については、正答率が57.9%であり、単語の類別についての理解や単語のはたらきについての理解に不十分な面が見られた。単に知識として覚えるだけではなく、意味を理解して用いるようにしたい。

㊦ 話すこと・聞くこと

一は、話し合いの方向を踏まえて発言の内容を整理し、話し合いが効果的に展開するように進行していく司会の役割を考える問題とした。具体的には、山口さんと小泉さんの発言の内容から共通点を整理し、「紹介する内容」と「紹介のしかた」の二つの視点を提示することで、この後の話し合いが目的に沿って効果的に展開するように工夫する場面を設定した。話し合いの過程で進み具合を客観的に把握したり、それまでの話し合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えたりすることが必要である。正答率は72.3%であった。

二は、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめることができるかを問う問題を設定した。問一の司会の発言を受けて、話し合いは「紹介する内容」と「紹介のしかた」という二つの視点で考えることになる。中田さんの発言を聞いて、「紹介のしかた」は「紹介する内容」と効果的に組み合わせるとよいということをつかみ、また、松下さんの発言を聞き、「紹介する内容」であった甲州弁が、「紹介のしかた」にも活用できるという考え方に発展させ、その具体例について考えをまとめる。話し合いの様子や内容、方向などを簡潔に整理した黒板を、自分の考えをまとめるときに活用することが大切である。正答率は41.1%であり、条件に従って考えをまとめて表現することに課題が見られた。

㊦ 古典（漢文） 出典 『韓非子』（明治書院 新釈漢文大系 昭和39年5月刊）

一（1）は、訓読の仕方を知り、漢文を音読して、漢文特有のリズムを味わいながら、漢文の世界に触れることをねらい、返り点の一二点の意味を理解し、送り仮名も含めて正確に音読できるかを、ひらがなで書き下し文を書く力を見ることで問うた。正答率は54.1%であった。平成18年度入試以来、漢文に関する出題がなかったこともあり、漢文の基礎的・基本的な内容の習熟に課題があることがうかがえた。

一（2）は、漢文に特徴的な対句表現を理解し、文脈の中における漢字の意味を的確に捉えることができるかを問うた。日常生活においては「利益」等を意味する「利」が、本文の文脈では「鋭い」という意味で用いられていることが理解できるかについてのこの問題の正答率は47.8%であった。書き下し文、訓読文、現代語訳といった複数の文章から、目的に合ったものを探して整理し、理解することに課題が見られた。

二は、歴史的仮名遣いの読み方に関する問題である。正答率は92.9%であり、語頭以外のハ行がワ行となるという原則については、よく理解されている。

三は、故事成語の由来を、書き下し文や現代語訳を参考にし、文脈を正しく理解した上で、要約できるかを問う問題である。キーワードを用い、可能な限り少ない字数でまとめ、それが読み手に

伝わるように工夫することを求めた。また、従来、文末を規定する記述問題が多く出題されてきたが、文頭を規定し、問われたことに対応する形で文末を工夫して書くことができるかどうか併せて問うた。正答率は50.7%であった。長文記述式の出題への対応には課題が見られた。

四 説明的文章 出典 『古典を読んでみましょう』 橋本治（ちくまプリマー新書，2014年7月刊）

一は、文の内容を読み取り、適切な語を空欄に補充する問題である。空欄の直前直後を丁寧に読んだ上で、文章全体と部分との関係を確認することができるかを問うた。可能性のあるいくつかのキーワードの中から、根拠を持って適切な語を判断できる力は、読む力として必要なものである。正答率は52.6%であった。説明的文章を読み進めるときには、話題提示に関する部分を意識して読むことが求められる。

二は、文章から適切な情報を得て指示語の内容を捉え、内容を要約する力を問う問題である。指示語の内容を、その直前をたどりながら理解し、その上で限られた字数の中にどの要素を残すべきかを判断し、再構成する力を問うた。正答率は40.3%であり、全体の構成上、異なる二つのテキストを比較する上で、覚一本の特徴について提示されていることを理解する必要がある、全体と部分との関係を理解する力に課題があることが見て取れる。

三は、文章の構成や展開、表現に留意して、内容を読み取る力を問う問題である。延慶本の特徴について、覚一本との比較の中でまとめている部分であることを理解することが必要である。正答率は42.3%であり、それぞれの選択肢に示された覚一本と延慶本の特徴を、本文の表現に注意して、本文と照合しながら読むことに課題があることがうかがえる。

四は、文章の構成や展開の仕方を読み取る力を問う問題である。『平家物語』には、琵琶法師によって語られた「語り物系」と、読み物としての「読本系」と言われる2種類のテキストが存在し、その両者を具体例を挙げながら比較することで、「話し言葉による文章」で書かれている「語り物系」と、「書き言葉による文章」で書かれている「読本系」の違いを明らかにしている。正答率は75.1%であった。

五 文学的文章 出典 『物語ること、生きること』 上橋菜穂子（講談社，2013年10月刊）

一は、表現の技法とその用法について考える問題である。Aは、「つむぐ」が「創作する」ことの比喩として用いられていることが理解できているかを問うた。Bは、「つむぐ」という比喩表現を用いて、筆者が「物語を創作すること」に対して、どのような思いを持っているかを問うた。A Bともに正答していた割合は46.5%であり、比喩という表現に関する知識を、実際の文章における筆者の思いや効果と結びつけて理解することに課題があると考えられる。筆者の思いを述べた表現を丁寧に追いながら、端的に言い換えた部分を探すことができなかったと思われる。

二は、語句の効果的な使い方を理解し、筆者の様子を読み取ることができるかどうかを問うた。「ため息をもらす」が、悲観する場合や感嘆する場合に用いられることを理解した上で、設問直後の表現から筆者の様子を判断したい。正答率は67.7%であった。

三は、文章の展開を捉えながら、登場人物の心情について考える問題である。「ひそかに」と「闘志を燃やす」という相反する感情を取り混ぜて用いた表現から心情を読み取り、条件に基づいて適切に記述する力を問うた。正答率は77.4%であった。

四は、文脈に即した語句の意味について考える問題である。「優れた作家だけが得ることができるもの」から、「作家独自の創作過程や方法」について、さらに、「作家自身が自らの手で見つけださなくてはならない」という筆者の考えへと展開していく文脈を踏まえて考える必要がある。正答率は66.7%であった。

五は、場面の展開を捉えながら、登場人物の言動の意味を考える問題である。四段落前から表現されている筆者の苦悩を丁寧に読み、「ひたすら書きつづけた」のは、「ひとつの世界、ひとつのストーリー」を書きたいと思っていたからであることを読み取る必要がある。正答率は78.0%であった。

六は、文章に表れている筆者のものの見方や考え方について考える問題である。文章を分析的に捉えて、前段落の筆者の考えを、村上春樹のエピソードを用いることで代弁させる効果を読み取りたい。正答率は70.6%であった。

七は、「書くこと」領域の問題である。本文を読んで「『これまで続けてきたこと（続けていること）』が今の自分にどのような影響を与えているか」について考えたことを、条件に従って記述する力を問うた。興味・関心があることを追究すること、そして継続することの大切さについて考えることは、キャリア教育の視点からも改めて考えさせたいテーマであり、自分自身を振り返り、考える機会とした。配点15点のうち、0～5点の分布の計が7.7%、6～10点が67.6%、11～15点が24.5%であった。

5 全体を通しての考察

読書経験をはじめとして、様々な体験を通じて、実際に使える語彙を増やしていく必要を感じる。漢文の基礎的・基本的な内容の理解や、話し合いの方向を捉えて的確に話したり、発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめることに、不十分な点が見受けられた。また、資料を的確に活用し、情報を整理して理解することや、文章の展開や表現に留意して内容を読み取ること、全体と部分との関係を確認しながら、根拠を持って判断すること、文脈を踏まえながら、表現に込められた筆者の意図を読み取ることにも、課題が見られた。条件に基づき、自分の考えをまとめて表現する記述式の出題形式は正答率が低くなる傾向にあり、この点についても依然として課題が残っている。

国語力全体としては、無答数も少ないことから、国語への興味・関心の高さがうかがわれた。古典については、漢文も含めて、音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことを一層進め、伝統的な言語文化への興味・関心を高めるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、自分の考えを形成していきたい。今回課題となった、文章全体を丁寧に読み、根拠を明確にしながら自分の考えを深めてまとめる力や、文章全体の構成を把握して内容理解につなげる力をつけるためにも、言語活動を通して、思考力、判断力、表現力の育成を図ることがさらに求められる。

○ 社 会

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また、多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

2 得点別に見た度数分布

平均点は57.8点で、前年度(55.4点)より2.4点高かった。最高点は100点、最低点は2点であった。得点分布は(図3-1 P15)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は58.6点、女子は57.1点で、男子が1.5点高かった。その得点分布は(図3-2 P15)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成23年度から今年度までの5年間の社会科の平均点は(図3-3 P19)のように推移している。今年度は過去5年間で一番高い平均点となった。問題の難易度は例年並みだが、より基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した結果、それらの正答率が高く平均点が上昇した。一方、記述式問題に対して自分の言葉で表現することや、図やグラフなどの資料(特に地理分野)を読み解く技能に課題が見られた。また、男女別比較で見ると、男子が女子を上回る傾向が続いている。

4 大問別の内容と調査結果の分析（正答率調査表 P21）

1 地理的分野

1 の世界の地理に関する問題では、地球温暖化の原因を選択肢の中から特定する問題で正答率が高かった。一方、ガーナの貿易についての資料を見て問題文からプランテーションを答える問題では無答率が11.7%と最も高かった。また、(2) のアメリカの適地適作についての理解を基に降水量が少ないという情報から、行われている農業を特定する問題は正答率が24.9%と低かった。地理学習の基本となる世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて世界の人々の生活や環境の多様性を理解することに課題が見られた。

2 の日本の地理に関する問題では、(1) の問題文からハザードマップを答える問題で正答率が高かった。(3) の人口や産業などのデータを見て地域の特色の理解から該当する府県を特定して答える問題では正答率が35.4%であった。

統計資料を用いて、地域の特色ある事象や事柄を中核として、他の地域との比較から地域的特色を理解して思考することに課題が見られた。

2 歴史的分野

1 の古代から近世までの問題では、(3) の問題文から南蛮貿易を答える問題において正答率が74.8%と高かったが、(1) の4～7世紀頃、朝鮮半島から日本に伝えられたものを特定する問題の正答率が低かった。また2の近代以降の問題では、(2) の日清戦争・日露戦争の頃の大陸との関係に着目し、複雑な国際情勢の中で我が国が近代国家を形成していったことについての理解に課題が見られた。単純な用語の記憶だけではなく、歴史事象を原因や背景、影響と関連付けて理解し表現することに課題が見られた。

3 公民的分野

全体的には入試直前の学習内容であるだけに、例年どおり地理的分野や歴史的分野に比べ正答率は高かった。1の三権相互の関係の基本的事項や、憲法が保障する基本的人権については、正答率が高かった。しかし、1(3)の三権分立をとっている理由を記述する問題の正答率は27.7%であり、決められた語句を使って自分の言葉で表現する問題で課題が見られた。

4 三分野総合

今年度の三分野総合問題は、ユネスコの無形文化遺産となった「和食；日本人の伝統的な食文化」をテーマにして、我が国の伝統と文化に関心を持たせ、文化の継承と創造の意義に気付かせる出題をした。伝統行事と行事食に関する基本的な知識を問う問題の正答率は高かった。4(2)の問題文から奈良時代を想起し、選択肢の中から奈良時代の様子について述べた文を特定する問題は正答率が40.9%であった。

5 全体を通しての考察

社会科はいずれの分野においても、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり自分の意見をまとめたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を身に付けることが求められている。そのためには、まず基礎的・基本的な知識の理解をより深く確実にすることである。一つの事象をただ単に用語として覚えるのではなく、事象の原因や背景、影響などを、時間的・空間的広がりを意識しながら勉強したり、具体的な社会的事象と関連付けながら理解するように学習したりすることが大切である。また、日頃から社会的事象に関心を向け、授業での重要な項目だけを無理に暗記しようとする学習ではなく、社会的事象と自分との関連の中で疑問点を持ってじっくり学習し、自分の言葉で説明できるところまで学習を進める姿勢が求められている。

社会科では社会的事象に関する興味や関心を持ったり、個々の事象について広がりを持った確かな知識を身に付け、よりよい社会を築いていくために様々な問題に主体的に関わっていこうとする資質を養うことが求められる。

○ 数 学

1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、関数、資料の活用の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や、数学的に表現し処理する能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する力が検査できるようにした。
- ② 知識や技能を活用して、問題を解決する力が検査できるようにした。
- ③ 複数の領域にわたって、総合的に考える力が検査できるようにした。
- ④ 思考過程や根拠などを論理的に説明できる力が検査できるようにした。

2 得点別に見た人数分布

平均点は47.3点で、昨年より2.3点低い。最高点は98点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 P16)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子48.0点、女子46.6点で男子が1.4点高い。ここ数年男子が女子より2点前後高い状況が続いているが、今年もほぼ同様の結果となった。その得点分布は(図4-2 P16)に示すとおりであり、26~65点では女子の構成比が、66点以上では男子の構成比が、それぞれ高くなっている状況である。

3 平均点の推移

平成23年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P20)のように推移している。ここ数年、数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題、理由を記述する問題を取り入れてきた結果、全体の平均点は50点前後を推移してきている。平均点が50点を下回ったが、複数の領域にわたる問題や条件を満たすものをすべて記述する問題を設定したことが影響した部分もあり、全体的には昨年並みと考えられる。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P22)

① 「数と式の四則」

基礎的・基本的な数式の処理をねらいに出題した。全体的に高い正答率であり、すべての問題が80%を超え、そのうち3題は95%を超えた。基本的な計算処理は十分定着していると考えられるが、平方根を含んだ基本的な計算、約分を含んだ単項式の乗法及び負の数を含んだ分配法則を使う問題では、正答率が90%を下回る結果となった。

② 「基礎的事項」

基礎的な知識に基づく表現や処理をねらいに、2次方程式、有効数字、反比例の性質、星形七角形の角の和、作図に関する問題を出題した。2次方程式の解法、反比例の性質の理解、円周上の点における接線の作図については、まずまずの結果となった。その一方で、有効数字の表記及び星形七角形の角の和については、正答率がそれぞれ、17.4%と、38.4%となり、教科書で扱われている内容全般にわたる定着に課題が残る結果となった。

③ 「関数」

身近な事象において、図(グラフ)の数値から関数関係を見出しその理由を説明したり、与えられた関数の式を用いて問題を解決したりすることをねらいに出題した。比例の関係を説明する問題の正答率は、32.5%であるが、部分正答を含めると52.2%となり、説明の方法の理解という点ではまずまずの結果となった。しかし、制動距離に関する問題では、与えられた条件に応じて関数の式を適切に活用して値を求め、問題文を読み取り、割合に関して正しく立式することにやや課題が残る結果となった。

4 「資料の活用」

場合の数・確率に関して、1次方程式の解や図形など様々な内容に関連させながら、条件に適するものを考察し適切に処理することをねらいに出題した。全体的場合の数を求める問題は、問題全体を正確に捉える上で基本となるが、正答率は69.8%とやや低かった。また、方程式や図形に関する内容を数学的に処理した上で条件に適するものを判断する必要があった問題に対しては、正答率がいずれも低かった。中学校段階では、樹形図をかいて考えることが基本であり、もれや重複のないように調べていく力に課題が残った。

5 「関数・平面図形」

関数のグラフとそれによりできる座標平面上の図形に関する事柄を、座標や平面図形の基本事項を用いながら考察し、処理することをねらいに出題したが、全体的に正答率は低いものとなった。特に、線分の比を求める問題では、直前の問題で相似な三角形について扱っていることを考えれば、相似比を利用して求めることになるが、正答率は22.6%と低かった。また、三角形の面積に関する問題では、頻繁に扱われる題材であるが、特に三角形の一部に着目する必要があるが、正答率はいずれも低かった。座標平面上での図形的な考察など、複数の領域にわたる問題を解決する力に課題が残る結果となった。

6 「平面図形・空間図形」

円柱を題材に、空間内の図形について、図形の性質と関連付けながら考察したり、長さや面積、体積を計量したり、立体を展開図を用いて考察したりすることをねらいに出題した。線分の長さが最大となる点の位置を見極め、位置を説明する問題では、数学の用語を用いて説明することに課題が残った。また、円柱の体積と回転体の体積が一定の比となる問題では、誤答率が56.4%あることから、関係を式で表し、数式を効率よく処理する力に課題が残る結果となった。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ある程度習得されている様子が見えるが、その一方で事象を数学的に捉え、既習の知識や技能を活用して処理する能力には課題が残る結果となった。数学的な見方や考え方を問う難易度の高い問題も含まれていたが、問題場面の状況を定式化したり、図形的に考えることで、そこに潜む関係を明らかにしたりすることができれば、基本的な公式や処理の仕方でも正答を導くことができる問題であった。こうした問題解決能力が期待どおりといえなかった点は残念であった。様々な場面を設定した事象を題材に、数学的な表現を用いて関係を紐解き、根拠を明らかにしながら筋道を立てて考察する力を高めるような授業の推進が一層望まれる。

○ 理 科

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「自然の事物・現象に進んで関わり、目的意識を持って観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・表現力等が見られるようにした。
- ② 全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないように出題した。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物・現象を理解するための基礎的・基本的事項について検査できるようにした。
- ④ 問題解決の力や論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 自然の事物・現象に関心を持ち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるようにした。
- ⑥ 身近な材料を扱い、実社会・実生活との関連を実感できるようにした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は、50.5点で前年より1.3点高い。最高点は98点、最低点は0点で、その得点分布は(図5-1 P17)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は51.7点、女子は49.4点で、男子が女子を2.3点上回った。男女別の得点分布は(図5-2 P17)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成23年度から今年度までの5年間の全体平均点は(図5-3 P20)のように推移している。平成23年度、平成24年度は40点台、平成25度は50点台、昨年度は40点台となったが、今年度は再び50点台になった。基礎的・基本的な学習内容の理解を確認する問題が増えたためであると考えられる。男女別比較でみると、毎年男子が女子を上回っている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P22)

① 「動物の仲間」「生物と環境」

セキツイ動物について正しく理解しているか、また、恒温動物と変温動物の気温(外界の温度)と体温との関係や胎生、両生類の呼吸のしかたについて、正しく理解しているかを確認した。さらに、生態系における食べる食べられるという関係と生物の数量の関係を正しく理解し、植物が減少した理由を論述により表現できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かった。内容の定着が図られていると考えられる。

② 「物質のすがた」「化学変化」

発生した気体が酸素と二酸化炭素であることを判断し、これらの気体の分子モデルについて、正しく理解しているかを確認した。発生した気体がアンモニアであることを判断するとともに、アンモニアが水に溶けたときの水溶液の性質及び上方置換について理解しているか、また、アンモニアの気体が入った試験管の中に、水が勢いよく入った理由を、論述により表現できるかを確認した。さらに、ガスバーナーの使い方について、正しく理解しているかを確認した。基本的な問題も含まれていたため、全体的に正答率はやや高かったが、現象に対してその理由の説明を求めた論述問題では、22.4%と低く、課題が見られた。

③ 「地層の重なりと過去の様子」

風化や、地層にはたらく力とそのずれの関係や地層のでき方の規則性について、理解しているかを確認した。また、柱状図から地層のつながりを正しく判断し、指示された地点の凝灰岩の層を図示することができるかを確認した。さらに、フズリナの化石から、地層の年代について、正しく理解しているか、示準化石の条件を論述により表現できるかを確認した。全体的に正答率はやや低く、その中でも、視点の異なる図を用いて、予想される柱状図を作図する問題の正答率は34.2%、示準化石の説明を求めた論述問題の正答率は31.9%と他と比べやや低かった。なお、論述問題の無答率も他と比べ18.4%と高く、課題が見られた。

④ 「力と圧力」「電流と磁界」

コイルに電流を流したときの磁界の向きや磁力線について正しく理解しているか、電流と磁界の向きからコイルに流れる電流が磁界から受ける力について理解しているかを確認した。また、与えられたグラフから、コイルに流れる電流が磁界から受ける力の大きさを、計算によって求めることができるかを確認した。さらに、モーターの中のコイルが回転を続けるための整流子のはたらきを論述により表現できるかを確認した。全体的に正答率は低く、その中でも、コイルを流れる電流と磁界の向きに関する選択の問題の正答率は20.8%、2つのグラフを用いて計算して正答を求める問題は24.7%、電流と磁界の関係を利用したモーターのしくみに関する論述問題は11.7%と低かった。なお、論述問題の無答率も他と比べ19.5%と高く、多くの課題が見られた。

5 「植物の体のつくりと働き」

茎の縦断面で赤く染まった部分について正しく理解しているか、道管及び葉脈について理解しているかを確認した。また、葉の表側と裏側から出ていった水の量の大小関係を正しく判断し、その理由を論述により表現できるか、さらに、与えられたグラフから、葉以外の部分から出ていった水の量を計算によって求めることができるかを確認した。全体的に正答率はやや高かったが、実験結果から、その根拠の説明を求めた論述問題の正答率は30.0%と他と比べ低く、課題が見られた。

6 「化学変化」「化学変化と物質の質量」

銅の粉末をステンレス皿全体にうすく広げる理由を、論述により表現できるか、酸化銅及び酸化マグネシウムの色について、正しく理解しているかを確認した。銅の酸化について理解し、化学反応式で表すことができるか、また、与えられたマグネシウムの粉末の質量から、加熱した後の酸化マグネシウムの質量を計算によって求めることができるかを確認した。さらに、与えられた混合物の酸化前後の質量から、銅とマグネシウムの酸化物の質量の比を計算によって求めることができるかを確認した。全体的に正答率はやや低く、特に、実験結果から銅、マグネシウム及び、これらの酸化物の質量比を計算で求める問題の正答率は、9.9%と非常に低く、無答率も他と比べると、18.2%と高く、課題が見られた。

7 「天体の動きと地球の自転・公転」「太陽系と恒星」

指定された時刻の南の空にある星座や、金星が沈む時刻について理解しているか、地球から見た金星の形について、正しく判断し、図示することができるかを確認した。また、地球から見た金星の大きさの変化について、正しく判断し、その理由を論述により表現できるか、さらに、惑星について正しく理解しているか、金星は明け方の東の空に見えることについて理解しているかを確認した。全体的に正答率はやや低く、その中でも、太陽、地球、金星の位置関係から、観察できる金星の形を作図する問題は22.6%と低く、課題が見られた。

8 「運動の規則性」「力学的エネルギー」

等速直線運動をしている物体にはたらいている力を正しく理解し、図示することができるか、小球の速さの変化や小球が持つ力学的エネルギーの大きさを理解しているかを確認した。また、位置エネルギーと運動エネルギー及び速さの関係から、小球が早く到達した理由を論述により表現できるか、さらに、与えられた条件から小球の平均の速さを計算によって求めることができるかを確認した。全体的に正答率はやや低く、特に、力学的エネルギー保存に関わる論述の問題、実験結果から平均の速さを計算で求める問題の正答率はそれぞれ6.7%、9.4%と非常に低く、計算の問題の無答率は他と比べ22.2%と高く、課題が見られた。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、基本的な学力及び科学的思考力、表現力を確認する形式の問題を多く出題した。また、昨年度と同様に、確かな知識やデータを活用して表現する力を確認するために、基本的な用語や実験結果等の理由について説明を要する論述問題を各大問に出題した。難易度は全体的に昨年度よりやや容易で、基礎的・基本的な知識や技能については、分野により偏りはあるが、定着の高い項目も見られた。一方、工夫を要する計算問題、論述問題、知識やグラフ等を活用して正答を導く問題の正答率が低かった。幅広く正確な知識の定着と同時に、知識や実験結果を活用して思考する力や、その過程や根拠を表現する力の育成が望まれる。

○ 英 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている外国語の目標及び内容に則して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力を検査できるようにした。
- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を取り入れ、リスニングテストの比重を約30%とした。
- ③ 「読むこと」については、昨年度よりも語数を増やした。長文により、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる英作文や、読解した英文等を活用して将来の目標について英文で書かせるなど、自己表現させる問題を取り入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点に当たっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は52.7点で、前年より2.2点上がった。最高点は97点、最低点は0点で、その分布は(図6-1 P18)に示すとおりである。

男女別の平均点を比較すると、男子は50.9点、女子は54.5点で、女子が男子を3.6点上回った。男女別の得点分布は(図6-2 P18)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成23年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P20)のように推移している。

今年度の平均点は昨年度をやや上回った。大問1～3は主に「聞くこと」に関する力を検査しているが、今年度は大問3に、日本語ではなく英語を記述する「書くこと」も重視した出題をした。選択問題である大問1と2については昨年同様に平均点は高く、受検生に一定の「聞く力」が養われていることがうかがわれる。しかしながら、「聞いて書く」ことを求めた大問3については正答率が低く、「書くこと」についての力を「聞くこと」と併せて育成することが求められる。大問4及び5の英文については、語数を昨年度より増やし、1000語程度にしなが、まとまった英文を限られた時間内に的確に理解する力を検査できるようにした。「読むこと」に関する力と「書くこと」に関する力をより一層、総合的に育成していくことが求められる。

また、男女別比較で見ると、昨年同様、女子が男子を上回っており、その差は3.6点と昨年の1.8点に比べ広がっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P23)

① 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」に係る問題

短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題で、様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価したりできるようにした。平均正答率は、79.4%と昨年度の83.5%より約4.1%下がった。

② 「聞くこと」「読むこと」に係る問題

まとまった内容の英文を2つ聞いて、各英文の内容に関する質問に答える問題。各英文のテーマや文脈を理解した上で、内容に関する質問を聞き取り、適切な答えを選択できるかを試している。平均正答率は78.9%と昨年度の72.3%を大きく上回った。身近な内容であったため、捉えやすかったことが理由であると考えられる。

③ 「聞くこと」「書くこと」に係る問題

英文を聞き取り、英語のメモを完成させる問題。英文を聞き取った上で、解答に必要な情報を選び出しそれを書く力を試す問題である。日米の文化の違いについての英文を聞き、「聞くこと」と「書くこと」の2つの能力を検査できるようにした。平均正答率41.6%と日本語でメモを完成させる問題であった昨年の92.7%を大きく下回り、複数の技能を統合する力に課題が見られた。

④ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

高校生の亜紀が、留学生のJaneにふるさとである山梨県の森とその森が与えてくれる素晴らしい恩恵について説明するという設定である。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料（単語、文法等）についての知識、文脈を把握した上で読解したり、表現したりする能力、英語を言い換えて表現する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力等を検査できるようにした。単語の空欄補充問題では、文脈を読み取った上で知識を活用するようにした。また、英文の空欄補充問題では本文の文脈に合わせて適切なものを補充させる形式にするなど、様々な観点から読解力を検査できるようにした。また、英語で表現する基本的な能力を検査できるようにした。

設問6の本文と同じ内容になるよう英文中に適語を入れる問題は、平均正答率が19.0%と低く、理解した英文の内容を本文中に使われていない英語で表現する力に課題がある。

設問1の与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる問題では、2点以上の得点であった者が59.5%、また、設問5では49.9%が2点以上であった。これは昨年度を上回っており、基本的な英語表現の理解は比較的進んでいると考えられる。

⑤ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の哲也が、目標を設定することの重要性について、友人のBobに英語のメールを送るという設定である。哲也は、職場体験を通じて人を幸せにすることの喜びと目標を設定することの意義を知る。学校で様々な体験活動を行っている生徒に、是非とも理解してほしい内容である。質問の答えを選択させたり、内容を要約した英文を完成させたり、文中の空欄に文脈から判断して適切な英文を補充させたりすることで、様々な観点から英語を読解する能力を検査できるようにした。また、将来の目標を5つ以上の英文で書かせることで、コミュニケーションが成立するように英語で適切に表現する能力を検査できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問5は、本文の内容を要約する問題であるが、平均正答率は34.9%と低かった。これは読解した英文を適切に要約する力を試す問題であるが、文法知識と文脈を理解する力の両者が求められているため昨年同様に正答率は低かった。

設問6は本文を踏まえ、自分自身の将来の目標を5つ以上の英文で書く問題であったが、満点の割合は26.0%と昨年の15.5%より高かった。無答の者は16.6%で、昨年の14.2%より若干増加した。読む英文の量が昨年よりも増加したため、読解に時間がかかり、この設問に時間を割くことができなかつたことが考えられる。自分の考えを適切に相手に伝えるということを意識しながら、ある程度のまとまりのある英文を決められた時間内で読み取り、学習した英語を使って表現する力を高める指導がさらに求められる。

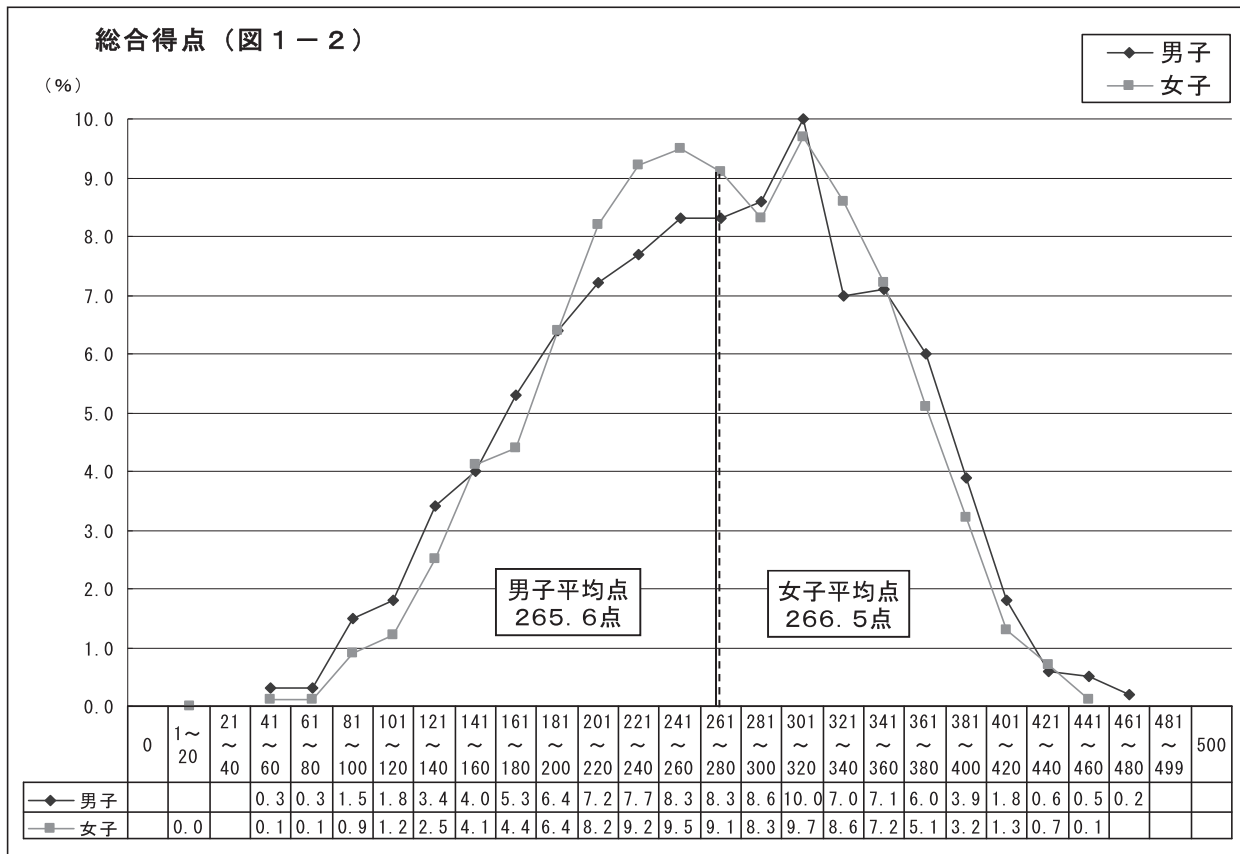
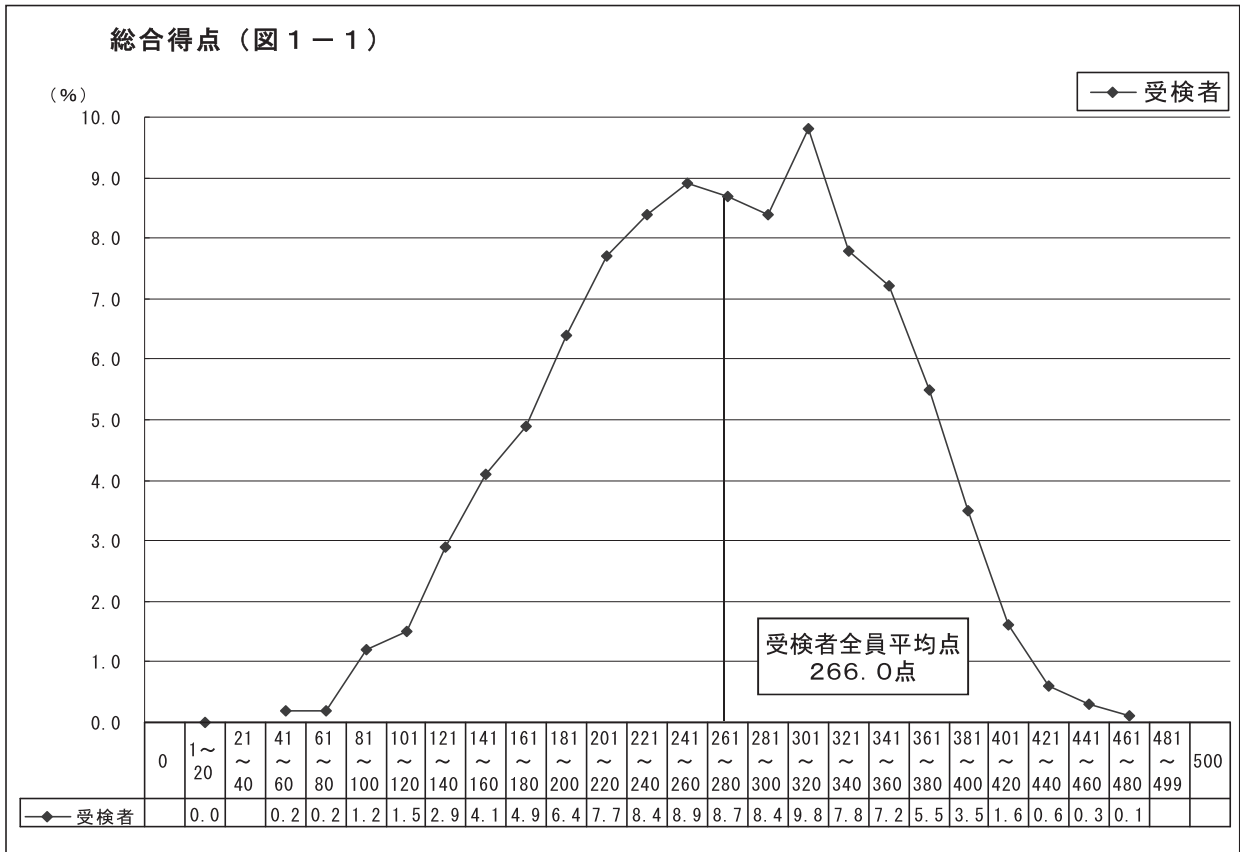
5 全体を通しての考察

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

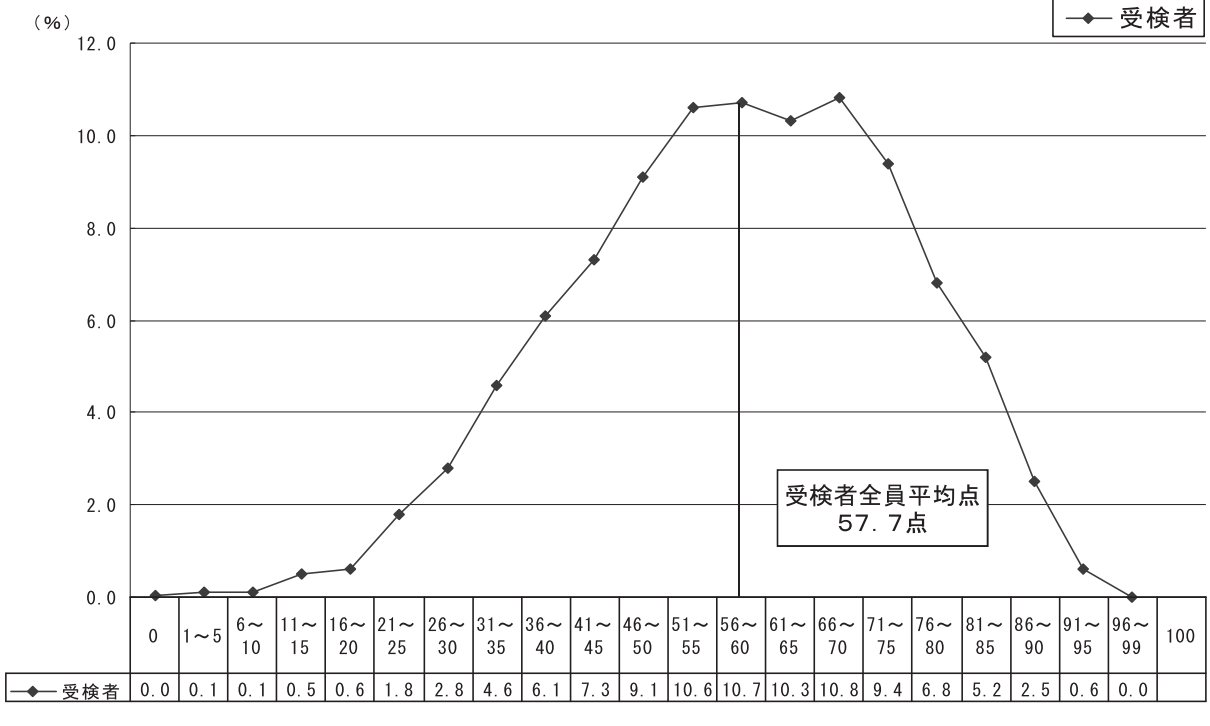
「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。

「読むこと」については、英文を読んで内容を理解できるかどうか、様々な観点から評価できるようにした。内容を理解した上で、文脈を踏まえて自分の表現で要約する力には課題が残る。

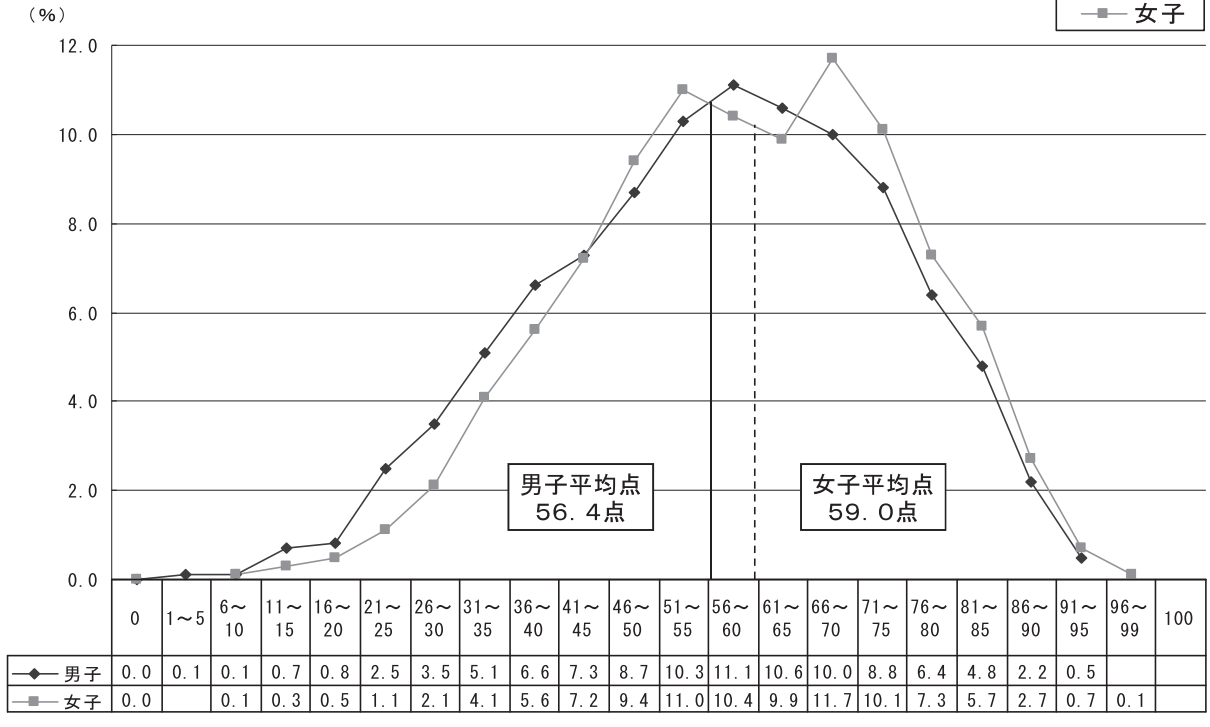
「書くこと」については、与えられた英文を理解した上で、その内容やテーマに関して自分の考えをまとめた英語で表現できる英語力の育成が求められる。同時に学習した文法事項等を使って、的確に表現する力の育成も今後の課題である。

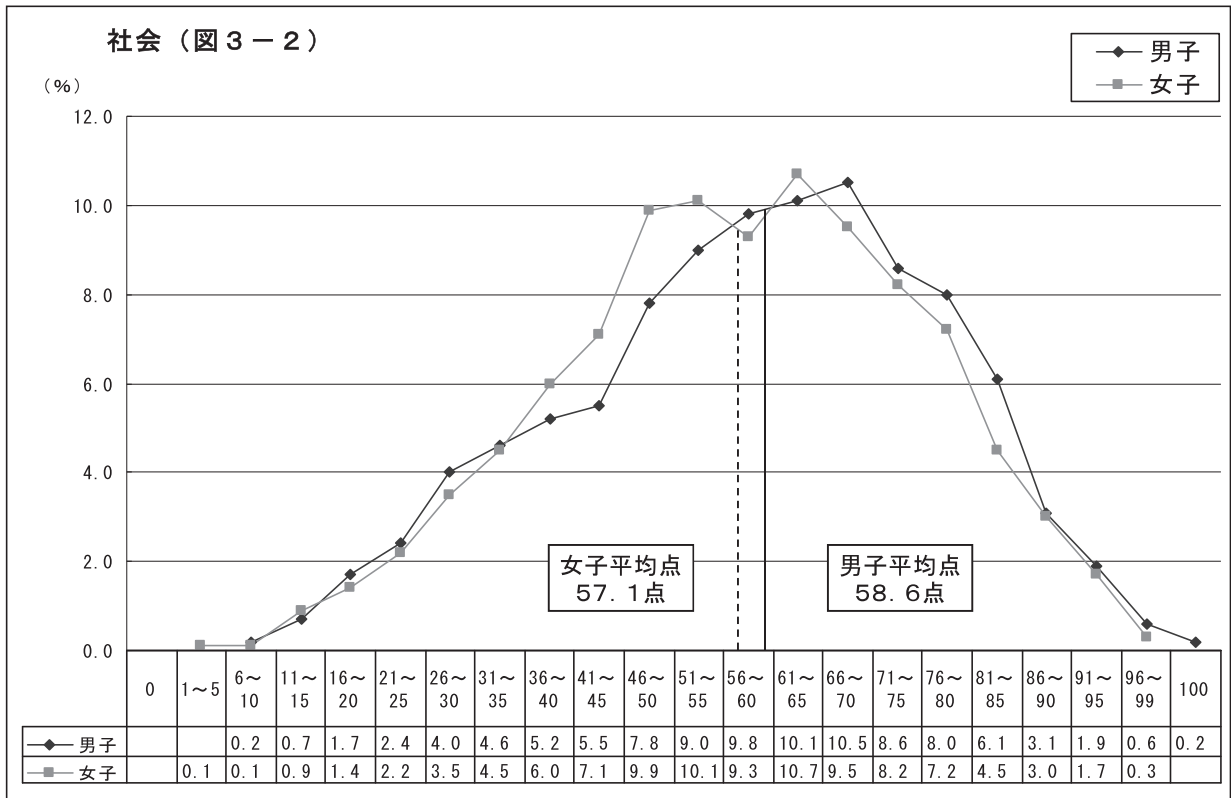
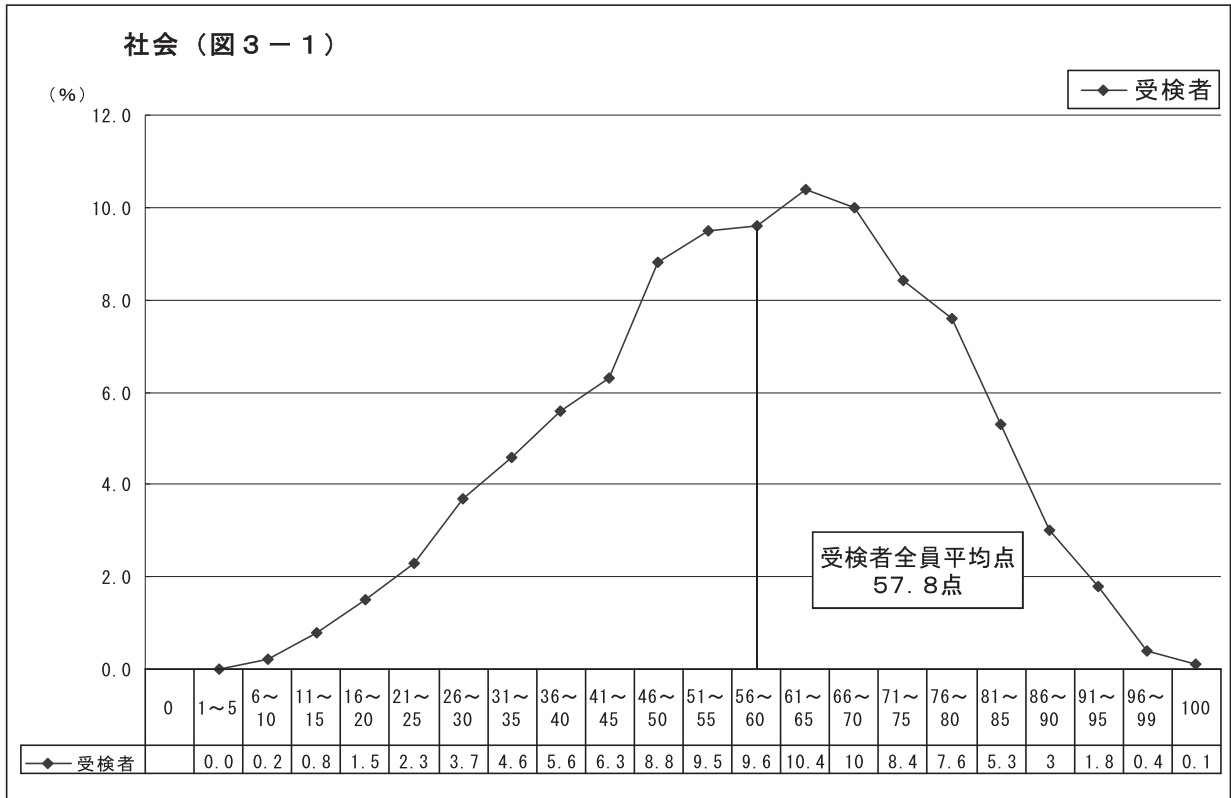


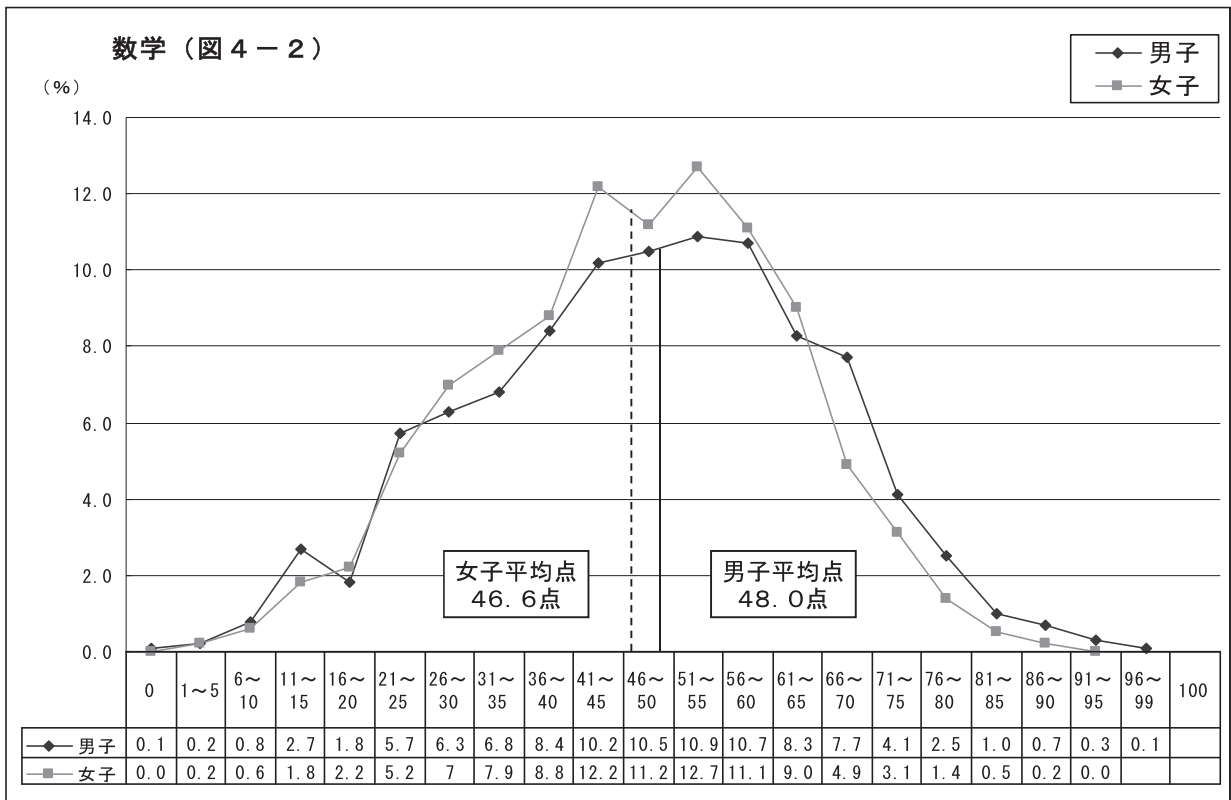
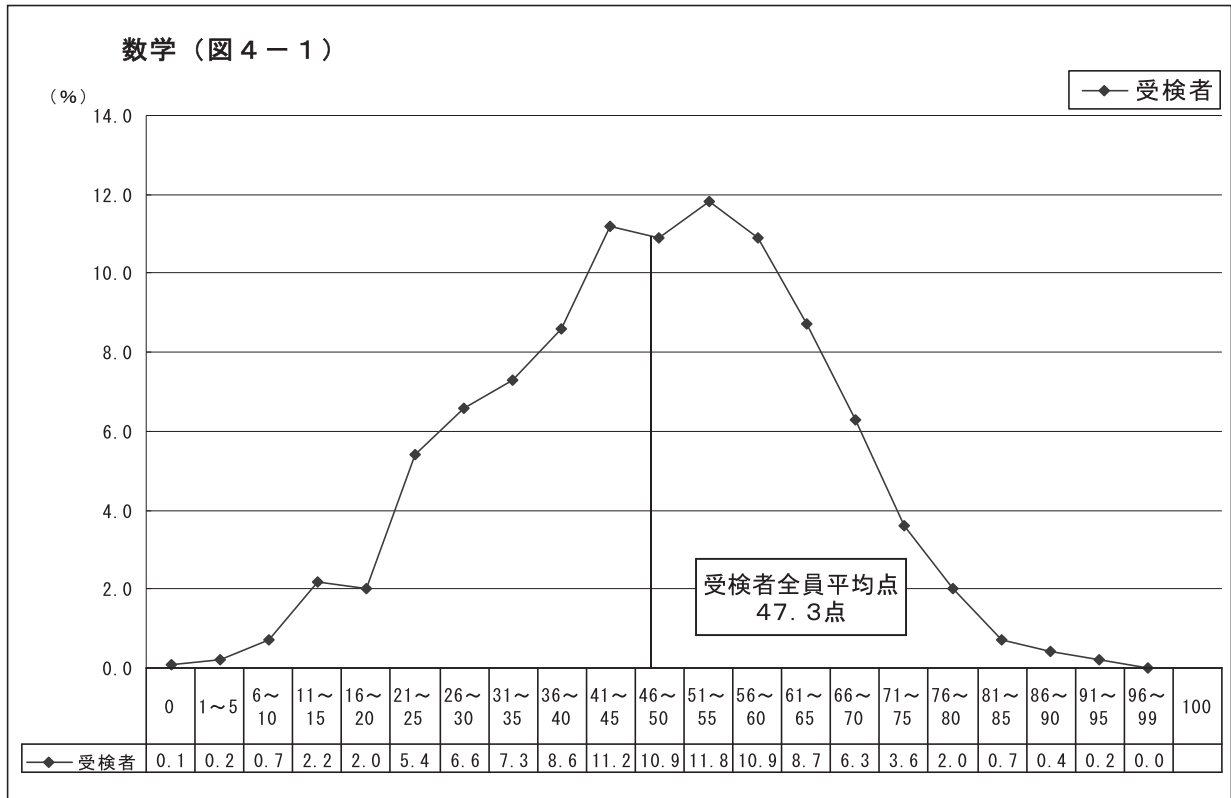
国語 (図 2-1)



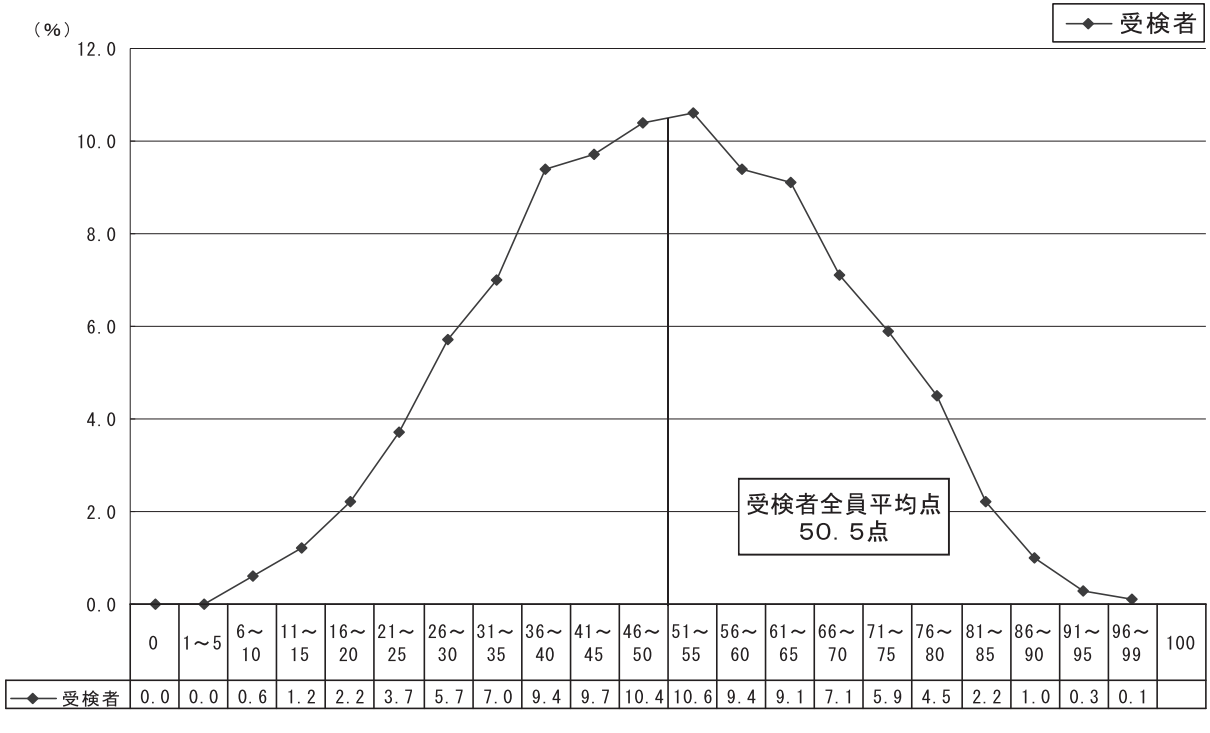
国語 (図 2-2)



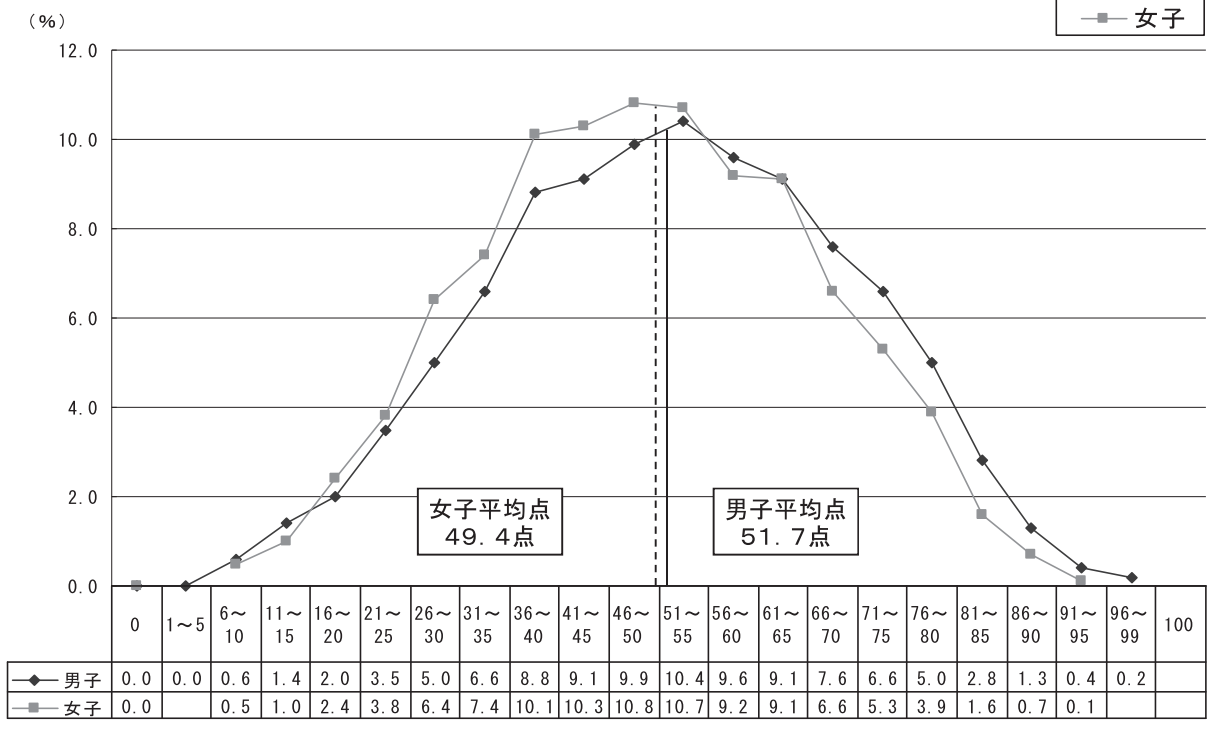


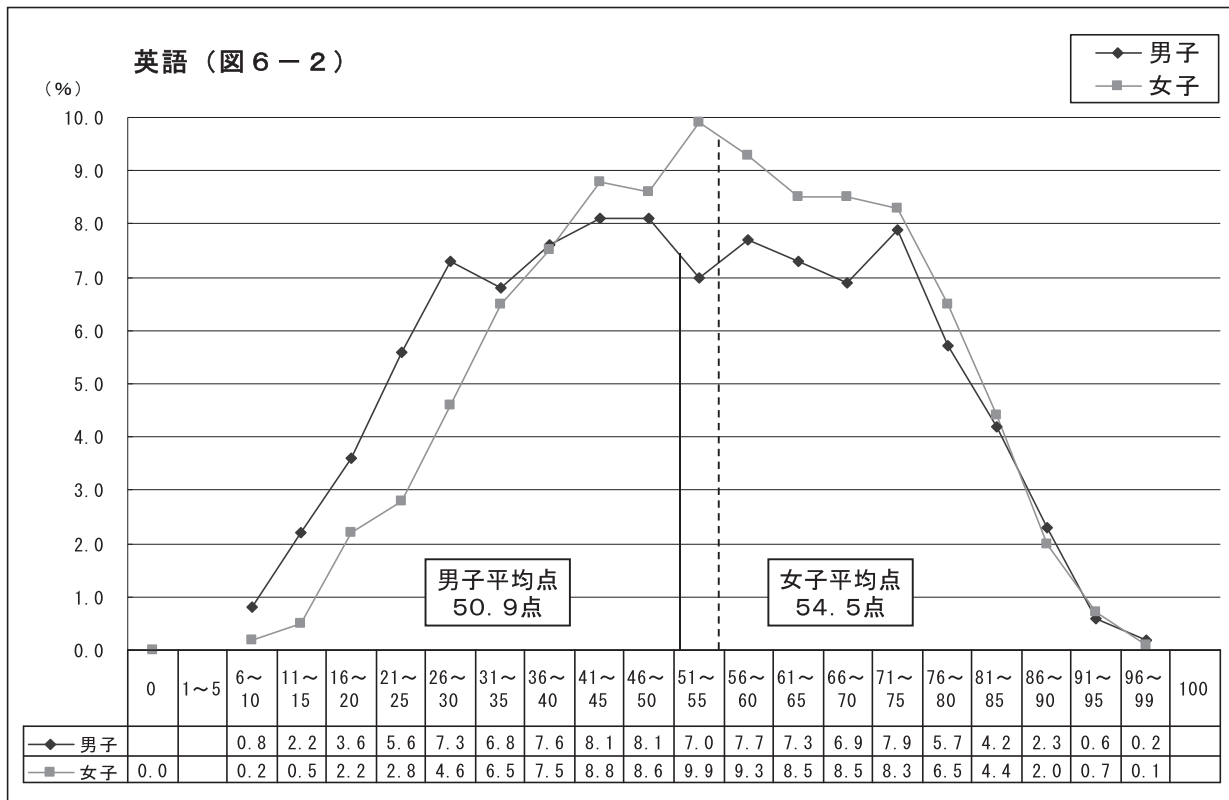
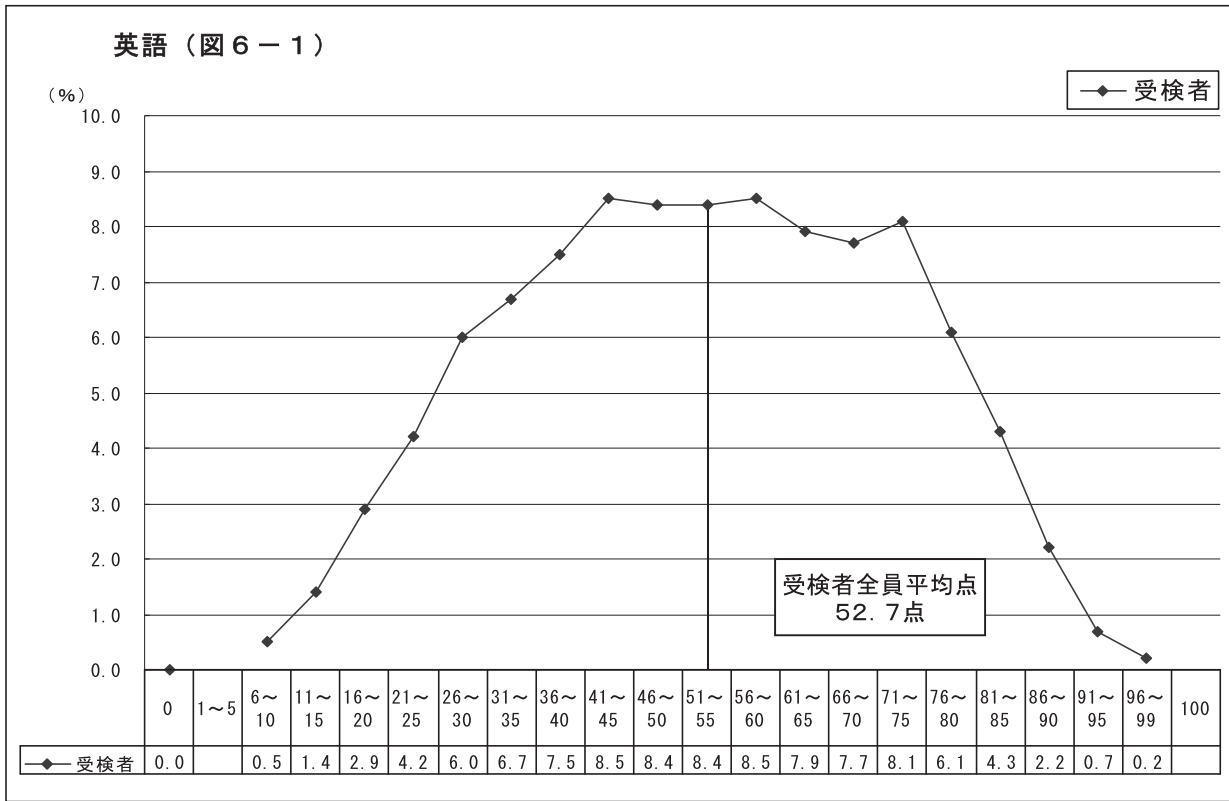


理科 (図5-1)

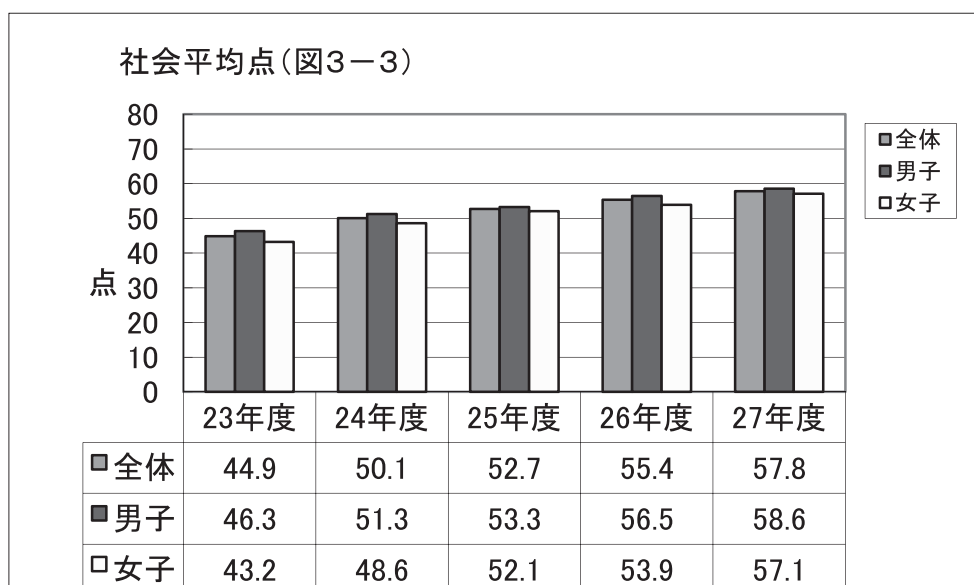
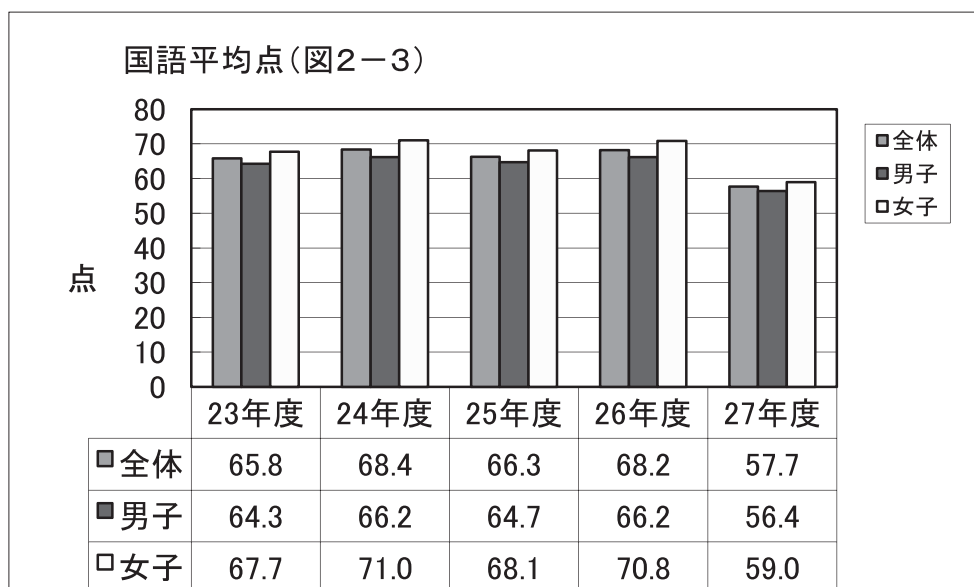
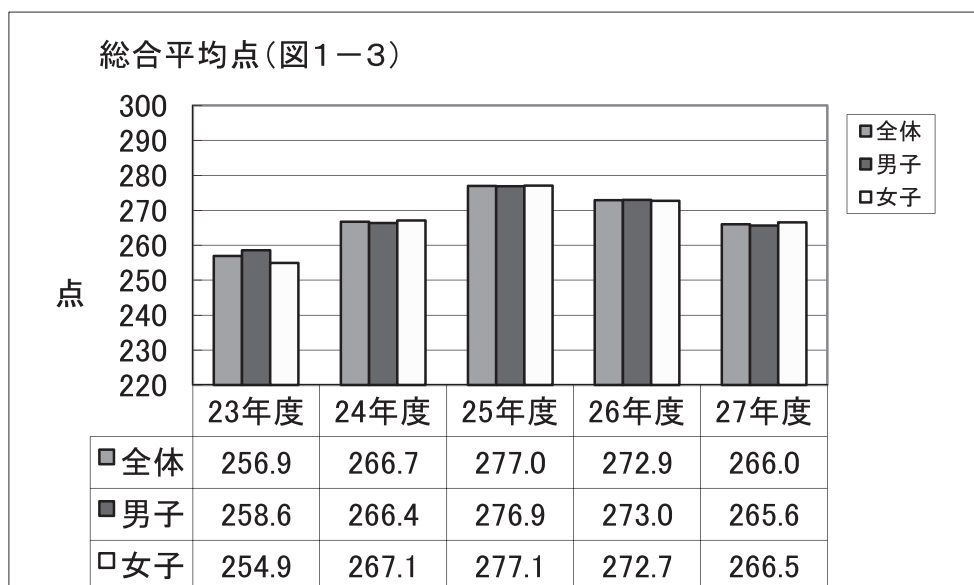


理科 (図5-2)

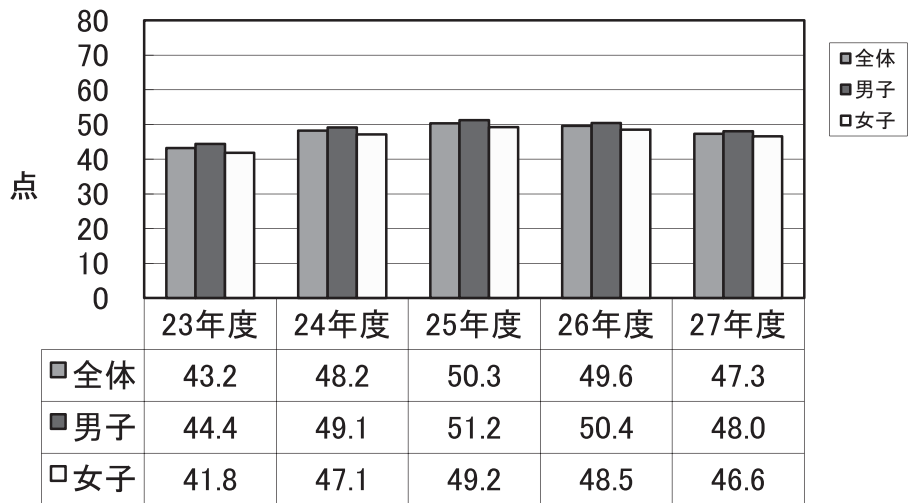




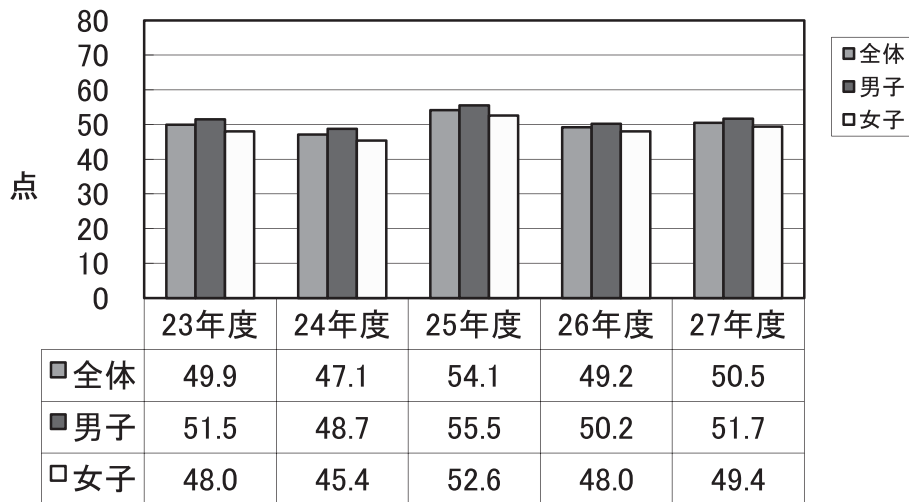
平成27年度 学力検査結果



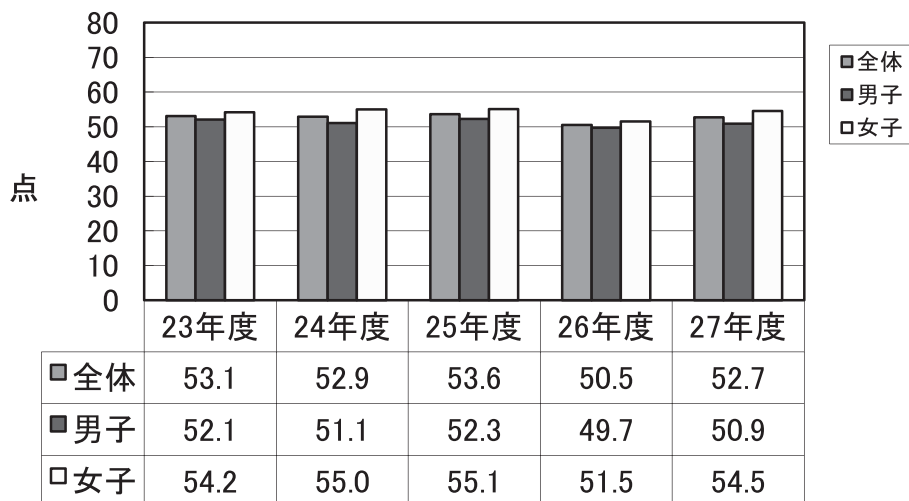
数学平均点(图4-3)



理科平均点(图5-3)



英語平均点(图6-3)



平成27年度 正答率調査表

【国語】

| 問 題 | | 正答率 | 誤答率 | 無答率 | |
|-----|---|-------|-------|-------|-------|
| 一 | 一 | ア | 97.7% | 2.3% | 0.0% |
| | | イ | 30.2% | 58.9% | 10.9% |
| | | ウ | 61.2% | 33.3% | 5.5% |
| | | エ | 78.0% | 20.3% | 1.7% |
| | | オ | 47.0% | 50.7% | 2.3% |
| | 二 | ア | 23.1% | 61.0% | 15.9% |
| | | イ | 41.1% | 43.4% | 15.5% |
| | | ウ | 53.0% | 28.5% | 18.4% |
| | | エ | 87.8% | 6.5% | 5.7% |
| | | オ | 87.4% | 6.3% | 6.3% |
| 三 | A | 91.8% | 8.2% | 0.0% | |
| | B | 57.9% | 38.8% | 3.4% | |
| 二 | 一 | 72.3% | 27.7% | 0.0% | |
| | 二 | 41.1% | 51.6% | 7.3% | |
| 三 | 一 | (1) | 54.1% | 44.4% | 1.5% |
| | | (2) | 47.8% | 49.9% | 2.3% |
| | 二 | 92.9% | 5.2% | 1.9% | |
| | 三 | 50.7% | 43.8% | 5.5% | |

| 問 題 | | 正答率 | 誤答率 | 無答率 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 四 | 一 | 52.6% | 45.9% | 1.5% | |
| | 二 | 40.3% | 55.8% | 4.0% | |
| | 三 | 42.3% | 57.4% | 0.2% | |
| | 四 | 75.1% | 24.1% | 0.8% | |
| 五 | 一 | A | 46.5% | 53.2% | 0.2% |
| | | B | | | |
| | 二 | 67.7% | 30.4% | 1.9% | |
| | 三 | 77.4% | 16.1% | 6.5% | |
| | 四 | 66.7% | 23.7% | 9.6% | |
| | 五 | 78.0% | 20.1% | 1.9% | |
| | 六 | 70.6% | 26.8% | 2.5% | |
| | 七 | 点数 | 人数の割合 | 点数 | 人数の割合 |
| | | 0 | 1.3% | 8 | 15.7% |
| | | 1 | 0.0% | 9 | 19.7% |
| | | 2 | 0.2% | 10 | 13.8% |
| | | 3 | 1.0% | 11 | 13.8% |
| | | 4 | 2.3% | 12 | 6.5% |
| | | 5 | 2.9% | 13 | 3.4% |
| 6 | 6.7% | 14 | 0.6% | | |
| 7 | 11.7% | 15 | 0.2% | | |

【社会】

| 問 題 | | 正答率 | 誤答率 | 無答率 | | |
|-----|-------|---------|----------|----------|-------|-------|
| 1 | 1 | (1) | 78.6% | 21.4% | 0.0% | |
| | | (2) | 24.9% | 74.8% | 0.2% | |
| | | (3) | 51.6% | 48.4% | 0.0% | |
| | | (4) | 64.4% | 35.4% | 0.2% | |
| | 2 | (5) | X | 72.5% | 15.7% | 11.7% |
| | | | 課題 | 2点 54.9% | 35.4% | 2.5% |
| | | | 1点 7.1% | | | |
| | | (1) | ㉑ | 74.4% | 25.6% | 0.0% |
| | | | ㉒ | 2点 81.1% | 17.0% | 1.0% |
| | | | 1点 0.8% | | | |
| (2) | 61.2% | 36.9% | 1.9% | | | |
| (3) | 3点 | 35.4% | 60.0% | 1.5% | | |
| | 2点 | 2.5% | | | | |
| | 1点 | 0.6% | | | | |
| | (4) | 38.2% | 61.6% | 0.2% | | |
| 2 | 1 | (1) | 3点 22.2% | 75.7% | 0.6% | |
| | | | 2点 1.5% | | | |
| | | (2) | 3点 58.3% | 34.4% | 5.2% | |
| | | | 2点 2.1% | | | |
| | | 1点 0.0% | | | | |
| | (3) | 貿易名 | 2点 74.8% | 18.7% | 3.4% | |
| | | 1点 3.1% | | | | |
| | 語句 | 67.3% | 31.7% | 1.0% | | |
| | (4) | 3点 | 68.1% | 23.9% | 7.5% | |
| | | 2点 | 0.4% | | | |
| | (5) | 3点 | 48.2% | 37.9% | 4.8% | |
| | | 2点 | 9.0% | | | |
| | 2 | (1) | 48.4% | 51.6% | 0.0% | |
| | | (2) | 20.3% | 79.5% | 0.2% | |
| (3) | | 59.5% | 40.5% | 0.0% | | |
| (4) | | 26.0% | 74.0% | 0.0% | | |

| 問 題 | | 正答率 | 誤答率 | 無答率 | |
|-----|-----|---------|----------|-------|-------|
| 3 | 1 | (1) | 71.5% | 28.3% | 0.2% |
| | | (2) | 81.1% | 18.9% | 0.0% |
| | | (3) | 3点 27.7% | 58.9% | 8.4% |
| | | 2点 5.0% | | | |
| | 2 | (1) | 83.9% | 16.1% | 0.0% |
| | | (2) | a | 91.0% | 7.3% |
| | b | | 2点 38.8% | 49.9% | 10.5% |
| | | 1点 0.8% | | | |
| | 3 | (1) | 54.7% | 44.4% | 0.8% |
| | | (2) | 75.3% | 24.5% | 0.2% |
| 4 | (1) | ㉑ | 2点 68.6% | 24.1% | 2.5% |
| | | 1点 4.8% | | | |
| | ㉒ | 95.2% | 4.6% | 0.2% | |
| | (2) | 3点 | 80.9% | 5.7% | 1.3% |
| 2点 | | 12.2% | | | |
| 4 | 1 | (1) | 3点 56.8% | 38.8% | 2.7% |
| | | | 2点 1.7% | | |
| | | (2) | 3点 60.2% | 26.2% | 4.2% |
| | | | 2点 9.4% | | |
| | 2 | 3点 | 68.6% | 28.3% | 1.9% |
| | | 2点 | 1.3% | | |
| | 3 | ㉑ | 96.2% | 3.4% | 0.4% |
| | | ㉒ | 84.5% | 14.7% | 0.8% |
| | | ㉓ | 89.3% | 9.9% | 0.8% |
| | 4 | (1) | 49.7% | 49.7% | 0.6% |
| (2) | | 40.9% | 58.5% | 0.6% | |

【数 学】

| 問 題 | | 正答率 | 部分 正答率 | 誤答率 | 無答率 | |
|-----|---|-------|-----------|-------|-------|-------|
| 1 | 1 | 96.2% | / | 3.8% | 0.0% | |
| | 2 | 96.0% | / | 4.0% | 0.0% | |
| | 3 | 99.0% | / | 1.0% | 0.0% | |
| | 4 | 87.8% | / | 11.5% | 0.6% | |
| | 5 | 81.3% | / | 18.4% | 0.2% | |
| | 6 | 88.1% | / | 11.7% | 0.2% | |
| 2 | 1 | 86.2% | / | 11.5% | 2.3% | |
| | 2 | 17.4% | / | 61.6% | 21.0% | |
| | 3 | 74.6% | / | 24.9% | 0.4% | |
| | 4 | 38.4% | / | 45.3% | 16.4% | |
| | 5 | 77.1% | / | 19.3% | 3.6% | |
| 3 | 1 | 88.9% | / | 10.1% | 1.0% | |
| | 2 | 32.5% | 19.7% | 28.7% | 19.1% | |
| | 3 | (1) | 31.7% | / | 54.3% | 14.0% |
| | | (2) | 21.8% | / | 64.8% | 13.4% |

| 問 題 | | 正答率 | 部分 正答率 | 誤答率 | 無答率 | |
|-----|---|-------|-----------|-------|-------|-------|
| 4 | 1 | 69.8% | / | 29.4% | 0.8% | |
| | 2 | 54.5% | / | 43.0% | 2.5% | |
| | 3 | 26.2% | / | 31.7% | 42.1% | |
| | 4 | (1) | 44.4% | / | 46.8% | 8.8% |
| | | (2) | 6.5% | / | 53.2% | 40.3% |
| 5 | 1 | 63.9% | / | 26.0% | 10.1% | |
| | 2 | (1) | 27.9% | 51.2% | 9.0% | 11.9% |
| | | (2) | 22.6% | / | 67.7% | 9.6% |
| | 3 | (1) | 0.6% | 7.8% | 29.8% | 61.8% |
| | | (2) | 0.6% | / | 32.9% | 66.5% |
| | 6 | 1 | (1) | 47.0% | / | 39.4% |
| (2) | | | 47.8% | / | 36.3% | 15.9% |
| 2 | | 4.8% | / | 56.4% | 38.8% | |
| 3 | | 6.5% | / | 40.9% | 52.6% | |

【理 科】

| 問 題 | | 正 答 率 | | 誤答率 | 無答率 | |
|-----|-------|-----------------|-------|-------|-------|------|
| | | 正 答 | 部分点 | | | |
| 1 | 1 | 96.4% | 0.0% | 3.1% | 0.4% | |
| | 2 | 78.4% | / | 21.6% | 0.0% | |
| | 3 | 84.3% | 1.0% | 11.7% | 2.9% | |
| | 4 | 93.9% | 0.0% | 6.1% | 0.0% | |
| | 5 | 70.9% | 7.5% | 19.9% | 1.7% | |
| 2 | 1 | O ₂ | 75.1% | / | 21.8% | 3.1% |
| | | CO ₂ | 88.5% | / | 8.6% | 2.9% |
| | 2 | ①② | 68.8% | / | 30.8% | 0.4% |
| | | ③ | 84.9% | 1.0% | 12.4% | 1.7% |
| | 3 | 22.4% | 30.0% | 36.3% | 11.3% | |
| 4 | 71.9% | / | 28.1% | 0.0% | | |
| 3 | 1 | 82.2% | 0.0% | 13.4% | 4.4% | |
| | 2 | 40.3% | / | 59.7% | 0.0% | |
| | 3 | 45.9% | / | 53.9% | 0.2% | |
| | 4 | 34.2% | 0.0% | 57.9% | 8.0% | |
| | 5 | 名称 | 51.2% | / | 42.6% | 6.3% |
| 条件 | | 31.9% | 5.2% | 44.4% | 18.4% | |
| 4 | 1 | 20.8% | / | 78.8% | 0.4% | |
| | 2 | 64.4% | 0.0% | 29.1% | 6.5% | |
| | 3 | 31.2% | / | 66.7% | 2.1% | |
| | 4 | 24.7% | / | 58.1% | 17.2% | |
| | 5 | 11.7% | 17.8% | 50.9% | 19.5% | |

| 問 題 | | 正 答 率 | | 誤答率 | 無答率 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| | | 正 答 | 部分点 | | | |
| 5 | 1 | 65.2% | / | 34.6% | 0.2% | |
| | 2 | ① | 86.4% | 0.2% | 11.3% | 2.1% |
| | | ② | 66.0% | 0.4% | 26.4% | 7.1% |
| | 3 | 30.0% | 57.2% | 11.1% | 1.7% | |
| 4 | 37.7% | / | 54.1% | 8.2% | | |
| 6 | 1 | 69.2% | 2.9% | 22.6% | 5.2% | |
| | 2 | Cu | 47.2% | / | 52.2% | 0.6% |
| | | Mg | 54.3% | / | 44.9% | 0.8% |
| | 3 | 49.5% | 0.0% | 39.8% | 10.7% | |
| | 4 | 32.7% | / | 53.2% | 14.0% | |
| 5 | 9.9% | / | 71.9% | 18.2% | | |
| 7 | 1 | 46.5% | / | 53.2% | 0.2% | |
| | 2 | 43.0% | / | 55.3% | 1.7% | |
| | 3 | 22.6% | 2.9% | 73.4% | 1.0% | |
| | 4 | 42.1% | 15.5% | 40.0% | 2.3% | |
| | 5 | ① | 65.6% | / | 33.1% | 1.3% |
| ② | | 67.5% | / | 31.4% | 1.0% | |
| 8 | 1 | 27.3% | 9.6% | 59.3% | 3.8% | |
| | 2 | 実験1 | 79.5% | / | 18.0% | 2.5% |
| | | 実験2 | 76.1% | / | 21.6% | 2.3% |
| | 3 | 62.9% | / | 34.4% | 2.7% | |
| | 4 | 6.7% | 29.1% | 49.1% | 15.1% | |
| 5 | 9.4% | / | 68.3% | 22.2% | | |

【英語】

| 問題 | 正答率 | 誤答率 | 無答率 | | | |
|---------------|-----|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | 1 | 97.7% | 2.3% | 0.0% | | |
| | 2 | 72.1% | 27.9% | 0.0% | | |
| | 3 | 89.7% | 10.3% | 0.0% | | |
| | 4 | 57.9% | 42.1% | 0.0% | | |
| 2 | 1-1 | 65.8% | 34.2% | 0.0% | | |
| | 1-2 | 69.0% | 31.0% | 0.0% | | |
| | 1-3 | 97.5% | 2.5% | 0.0% | | |
| | 2-1 | 96.4% | 3.6% | 0.0% | | |
| | 2-2 | 61.0% | 39.0% | 0.0% | | |
| | 2-3 | 83.4% | 16.6% | 0.0% | | |
| 3 | A | 3点 | 48.2% | / | / | |
| | | 2点 | 1.3% | | | |
| | | 1点 | 6.9% | | | |
| | | 0点 | 43.6% | | | |
| | | 0点のうち無答の者の割合→ | | | | 8.2% |
| | B | 3点 | 69.8% | / | / | |
| | | 2点 | 1.5% | | | |
| | | 0点 | 28.7% | | | |
| | | 0点のうち無答の者の割合→ | | | | 4.0% |
| | C | 3点 | 6.7% | / | / | |
| | | 2点 | 0.8% | | | |
| | | 0点 | 92.5% | | | |
| 0点のうち無答の者の割合→ | | 13.0% | | | | |
| 4 | 1 | 4点 | 24.5% | / | / | |
| | | 3点 | 20.1% | | | |
| | | 2点 | 14.9% | | | |
| | | 1点 | 8.0% | | | |
| | | 0点 | 32.5% | | | |
| | | 0点のうち無答の者の割合→ | | | | 10.9% |
| | 2 | ① | 56.6% | 43.4% | 0.0% | |
| | | ② | 80.3% | 19.7% | 0.0% | |
| | | ③ | 66.7% | 33.1% | 0.2% | |
| | 3 | A | 51.6% | 43.6% | 4.8% | |
| | | B | 37.7% | 53.5% | 8.8% | |
| | | C | 26.2% | 58.9% | 14.9% | |
| | 4 | ① | 73.0% | 26.2% | 0.8% | |
| | | ② | 57.9% | 40.5% | 1.7% | |
| | | ③ | 62.3% | 36.3% | 1.5% | |
| | 5 | 5 | 4点 | 5.5% | / | / |
| | | | 3点 | 16.1% | | |
| | | | 2点 | 28.3% | | |
| | | | 1点 | 13.8% | | |
| | | | 0点 | 36.3% | | |
| | | 0点のうち無答の者の割合→ | | 22.0% | | |
| 6 | | ① | 45.9% | 51.4% | 2.7% | |
| | ② | 8.8% | 81.3% | 9.9% | | |
| | ③ | 2.3% | 87.4% | 10.3% | | |

| 問題 | 正答率 | 誤答率 | 無答率 | |
|----|----------------|------------|--------------|-------|
| 1 | ① | 87.2% | 12.8% | 0.0% |
| | ② | 76.3% | 23.3% | 0.4% |
| 2 | 4点 | 29.1% | / | / |
| | 2点 | 49.1% | | |
| | 0点 | 21.8% | | |
| | 2点, 0点のうち, 無答が | | | |
| | | ひとつの者の割合→ | 1.9% | |
| | | ふたつの者の割合→ | 1.5% | |
| 3 | 15.9% | 78.4% | 5.7% | |
| 4 | 82.4% | 15.1% | 2.5% | |
| 5 | A | 51.6% | 35.4% | 13.0% |
| | B | 28.7% | 50.5% | 20.8% |
| | C | 4.6% | 64.8% | 30.6% |
| | D | 54.7% | 31.0% | 14.3% |
| 6 | 10点 | 26.0% | / | / |
| | 9点 | 8.4% | | |
| | 8点 | 9.9% | | |
| | 7点 | 4.8% | | |
| | 6点 | 5.9% | | |
| | 5点 | 4.6% | | |
| | 4点 | 6.5% | | |
| | 3点 | 2.3% | | |
| | 2点 | 3.8% | | |
| | 1点 | 2.1% | | |
| | 0点 | 25.8% | | |
| | 解答の正誤にかかわらず | | | |
| | | | 6文以上書いた者の割合→ | 7.3% |
| | | | 5文書いた者の割合→ | 54.9% |
| | | | 4文書いた者の割合→ | 5.0% |
| | | | 3文書いた者の割合→ | 6.1% |
| | | | 2文書いた者の割合→ | 4.0% |
| | | 1文書いた者の割合→ | 6.1% | |
| | | 無答の者の割合→ | 16.6% | |

